


令和4年度「社会貢献促進セミナー」の紹介

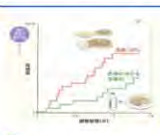


Social Contribution Facilitation Seminar




群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻では、大学院生の必修科目として「社会貢献促進セミナー」を行っています。平成16年から始まった取り組みで、社会貢献に関する課題(プログラム)を大学院生自らが設定したり、あるいは群馬県庁および前橋保健所からご提案頂いたプログラムを実践したりして、社会貢献への理解を深めています。今年度は25のプログラムを47名の大学院生が実践しましたので、その内容をご紹介します。




No	プログラム名	人数	プログラム内容
1	行政情報・生活情報の各国言語への翻訳及び周知	1	<p>群馬県に住んでるモンゴル人向けに情報提供として2種類のチラシを翻訳した。内容としては、新型コロナウイルス感染症の3回目のワクチン接種の必要性、その他のワクチン、副反応、相談先についてである。また、翻訳したチラシを群馬県のモンゴル人向け Facebook に投稿した。</p> 
2	International exchange event with students from Hara-machi Elementary School 原町小学校の児童との国際交流イベント	3	<p>On July 19th, the international communication event with students from Hara-machi Elementary School was organized by Gunma University International office. The event was held by Fukushima-sensei from Gunma University and Kitazume-sensei from Hara-machi Elementary School. On the event, we help the elementary school students to improve their English and learn about people from different countries. Also, international communication could activate children's curiosity and broaden their horizons. As for international students, we enjoyed the moment with children from different cultural background.</p> <p>(7/19、群馬大学主催で、原町小学校の児童との国際交流イベントが開催された。このイベントでは、小学生に英語を学んでもらうだけでなく、さまざまな国の人々について知ってもらった。国際的なコミュニケーションは、子どもたちの好奇心を活性化し、視野を広げることに貢献できた。留学生にとっても、異なる文化的背景を持つ子どもたちとのひとときを楽しむことができた。)</p>

3	肺高血圧症患者 会市民講演会	1	肺高血圧症は息切れなどの症状を呈する難病である。肺高血圧症の患者会「よつ葉の会」では、患者やその家族を中心に様々な人が参加し、病状や治療などに関して情報共有や連携を深めている。その会の運営のお手伝いとして参加させていただいた。	
4	高校生のための 医学セミナー	5	医療に興味がある高校生に対し、高校生のための医学セミナーを行った。地方においては医師の確保が課題である一方、医師の勤務環境があまり良くないというイメージがついている。少しでも医師という職業に興味をもってもらえるよう、セミナーを通して、受験勉強、医学部生・医師の実際、将来への展望をお伝えした。	
5	高齢者健康促進 プログラムにおけ る医師としての関 わり	1	小規模な地方自治体における健康促進事業に参画した。北群馬郡吉岡町(人口 25000 人程度)の町立保健センターが企画する、高齢者に向けた健康促進プログラムの一環として、参加者に対して講演を行った。町からの依頼であった栄養の話に加え、専門としている癌という疾患に関して、基礎的な知識から最新の知見までお話した。	
6	Yasashii-Nihongo (Easy/Plane Japanese) Class 医学部生対象の 「やさしい日本語」 講座	2	<p>In this lesson we uncovered why it is so difficult for foreigner to understand Japanese language. Yasashii-Nihongo is an easy version of Japanese language for foreigners. Gunma university is a health science university that is preparing future doctors and medical staffs. Yasashi-Nihongo class is important for students because they learned on how to communicate with foreign patients in the future. On January 7th and 21st 2023, we held an online class for foreign and Japanese students. In this class, we communicate with Japanese students, it was easy to understand each other by Yasashi-Nihongo. That seminar was a good experience for future doctors and medical staffs.</p> <p>「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にも理解しやすい日本語のこと。群馬県主催の医学部生を対象とした「やさしい日本語」を使って患者さんとコミュニケーションをとるための基礎知識を学ぶ講座に協力した。学生が言い換えた「やさしい日本語」に対して、外国人が理解できるか、どのように言い換えればより分かりや</p>	

			すい日本語になるか、フィードバックをした。また教材作成に協力した。このプログラムを通して将来の医師育成に貢献できたと考える。
7	群馬大学重粒子がん治療施設見学会	6	インターネット等で告知し事前に応募のあった一般市民に対し上記の日程で群馬大学重粒子線治療施設の見学を行った。本イベントは新型コロナウイルス感染症対策のため定員を100人とし、約40分かけて治療室、Simulation-CT室、加速器室の見学を小グループごとに行い、各セクションで医師、看護師、放射線治療技師、医学物理士が実際にそれぞれの説明を行った。本プログラムは、一般の方が重粒子線治療について理解を深めることに貢献したと考える。
8	高校生のための研究室紹介(群馬大学2022医学科オープンキャンパス)	2	所属する講座の紹介動画を作製し、医学科オープンキャンパスで作製した動画を使用し講座の紹介を行った。動画を用いて、高校生にもわかりやすく研究内容や講座の紹介を行うと共に、ウイルス学研究の役割について理解を深めてもらうと共に、医学部における基礎研究に触れてもらった。 
9	検視実務研修における講義	1	2022年6月16日、群馬県警察学校の検視実務研修において、検視業務に従事する捜査員に対し、法医学的知識や基礎解剖に関する講義をパワーポイントを用いて行った。今回の講義を通じて、捜査員の捜査能力の習得や犯罪死見逃しの予防が期待される。
10	医療通訳ボランティア養成講座	1	群馬県には6万人の外国人が生活している。日本語でのコミュニケーションが十分にできない人も少なくない。群馬県では医療通訳派遣制度として89名がボランティアとして登録し、15の言語に対応している。群馬県医療通訳ボランティア養成講座に講師として参加するとともに、担当者や講師、養成講座受講者にお話を伺った。
11	第12回群馬大学炎症性腸疾患(IBD)教室	1	近年若年者で好発している炎症性腸疾患(IBD)は、完治はせず生涯にわたって再燃と寛解を繰り返す原因不明の消化管難治性疾患である。当科では2009年から毎年、群馬大学IBD教室という患者向けの講演会を主催している。2019年度は自分が講師として講演会を行ったが2020年度と2021年度はCOVID-19のため中止となった。今年度も対面での講演は断念したものの、以下のような患者向けパンフレットを作成し配布するという活動を行った。

		<p>第12回 群馬大学 IBD 教室 栄養療法を続けるコツとは</p> <p>栄養剤はなぜ必要?</p> <p>クローン病患者さんの腸は炎症を起こしていただいているような状態です。癒がたれている状態で食事しても、水分の吸収ができず下痢に繋がります。栄養が吸収できず痩せてきてしまいます。さらに腸がひどい炎症や壊瘍をまじることや熱が出てしまうこともあります。腸を休ませてあげなければ十分な栄養が吸収されず、栄養が足りなくなりますが、ただ食事量を減らすだけでは十分な栄養が足りなくなってしまう。そんな時に腸を休ませながらしっかりと栄養を摂るために有用なのが栄養剤です。</p>  <p>栄養剤を使用することで腸の機能がよくなるリスクを抑えることができます。</p> <p>栄養剤について</p> <p>クローン病患者さんに処方する栄養剤の代表はエンターール®です。みなさん一度は聞いたことがあるのではないでしょうか。三大栄養素の一種であるタンパク質は消化によってアミノ酸になることで吸収することができます。エンターール®はアミノ酸によって構成されているためほとんど消化の必要がなく、とても吸収しやすい栄養剤です。またクローン病に腸管炎症を及ぼすと思われる脂肪がほとんど含まれていないこともクローン病患者さんに処方する栄養剤として適している理由でもあります。</p> <p>しかしアミノ酸の持つ独特な臭気のため、なかなか服用できない方もいるのではないのでしょうか。</p>	<p>エンターールの正しい飲み方</p> <p>エンターールは1パック80gを水またはぬるま湯(30-40度)に溶かして飲んでいただきます。成分が濃いためお腹が膨らんだり下痢をしてしまうこともあるため、慣れていない方は薄めて飲むなど工夫をしてみてください。さらに熱い飲み物で溶かしてしまうと下痢を誘ってしまうことがあるため1パック1回を目安に飲み始めてください。個人差がありますが慣れてくれば水分を少なくし飲む量を減らしたり飲むペースを上げたりも可能です。一気飲みは避けてください。</p> <p>栄養療法を続けるコツ</p> <p>エンターールの風味が合わない方は、好みのフレーバーを一つつけてみましょう。現在使われているフレーバーは以下の通りです。また、フレーバーを半分ずつ混ぜることも可能です。例えばヨーグルト味と青りんご味を半分ずつ混ぜるならリンゴヨーグルト味になるので味のバリエーションが広がります。たしかにゆっくり飲むのが難しい方はゼリー状にしてみるのも中のゆっくりに慣れてくると飲みやすくなります。おいしいのは経腸法といって、腸いすこぶで自分で食から栄養で得入るに代えてエンターールを注入することもできます。最初は抵抗があるかと思いますが、慣れてくると自然と導入することが可能で、夜中寝ている間に注入することで毎日の活動に支障なく栄養療法を続けることができます。興味がある方には専門家の仕方などを教えていただきますのでお問い合わせください。</p> <p>その上で病状の状態に前向きに上手に対処していくのが長く栄養療法を続けるコツかと思えます。例えば少し食べ過ぎてしまった翌日はエンターールを標準量に戻し、旅行に行く時にはエンターールのことは知れのある程度自由に食事を楽しめるように準備をしておくことがエンターールをしっかりと再開する、胃腸が弱くは食事量を減らしてエンターールを管理することで病状変化に上手に対応していきましょう。</p>  <p>文責：群馬大学医学部附属病院 消化器・肝臓内科 橋本 康 監修：EAフォーラム株式会社</p>
12	糖尿病教室	1	<p>群馬大学医学部附属病院の糖尿病教室は内分泌・糖尿病内科、歯科口腔外科、糖尿病療養指導士、薬剤部、栄養管理室とリハビリテーション部門が連携し、入院中の糖尿病患者さんを対象に週2回程度開催されている。私は患者さんの質問に回答するなど、講師助手として参加した。コロナ禍で参加人数に制限があったが、患者さんが糖尿病の合併症を勉強し、自ら血糖管理をしようとする意識の高揚に努めた。糖尿病教室の参加は将来の合併症予防に繋がると考えられる。</p>
13	高校生のための外科手技セミナー	2	 <p>本学医学科オープンキャンパスにて、高校生を対象として腹腔鏡手術シミュレーターをハンズオン形式で体験してもらった。本企画で医療にふれる事で理解向上と医学部受験へのモチベーション向上に寄与できたと考えられる。</p>
14	「放射線治療の質の向上」への貢献	1	<p>東京都がん診療連携協議会 評価・改善部会の活動である病院相互訪問において「放射線治療の質の向上」に関する当院での取り組みや工夫点を発表し、意見交換を行った。部会全体での情報共有を通じて、がん診療の質の向上として社会貢献につながることを期待される。</p>
15	ギャンブル依存症セミナー・家族相談会	1	<p>「全国ギャンブル依存症家族の会 群馬太田」主催のイベントに、講師として参加した。セミナーには家族・当事者・援助職等を含む130名の参加があり、ギャンブル依存症の基礎知識や県内の相談状況について講演を行った。家族相談会では、ギャンブル依存症の家族の方の個別相談において精神科的な見地から助言を行った。いまだ</p>

			誤解や偏見の多い依存症という病気について、正しい知識を伝え適切な相談先を紹介する機会となった。
16	県内中学生を対象とした職業インタビュー	1	県内中学校の学生を対象とした、職業インタビューを実施した。コロナ禍で実地での職業体験が難しい社会情勢となっているため、ウェブ会議システムを利用した。重症の新型コロナウイルス感染症診療の実際と集中治療室の概要をパワーポイントで説明した。学生から質問があり、適宜回答した。 
17	小学生への職業紹介	1	前橋市の小学6年生の「総合的な学習」の講師となり、将来のなりたい職業の一つとして、自身の職業に関連した内容を紹介した。授業を通じて、社会で働くことの苦勞や心構えを得ること、人との協調性や責任感について学ぶ場を提供することができた。
18	市民公開講座	5	アレルギー診療を行う小児科・皮膚科・耳鼻咽喉科より患者・家族・学校・施設の教員、職員などのアレルギーに関心がある方に対して分かりやすく講演を行った。小児アレルギー科医として小児期に多い食物アレルギーを中心に講演を行った。
19	子育て支援事業 運動発達支援「のびのびあそぼう会」	1	「のびのびあそぼう会」は、不器用・運動が苦手な年長児に対し、自分の身体の動かし方や運動の楽しさを体感してもらい、保護者には運動の習慣づけを意識してもらえるよう支援することを目的としている。今回は、令和4年8月31日に開催された「のびのびあそぼう会」に参加して集団活動の様子を観察するとともに、自身の専門領域かつ参加者の関心が高いと思われた「夜尿症」についての講義を行った。発達支援事業への参加の経験を生かした診療を行う事や、夜尿症について関心を持ってもらうことで、社会貢献へつながると考えている。
20	子宮頸癌啓発セミナー ライフステージに合わせた産婦人科受診のすすめ	1	群馬県健康福祉部 感染症・がん疾病対策課と連携企業協定を結んでいる第一生命株式会社の社員に対し、子宮頸癌の啓発、およびかかりつけ産婦人科を持つことについて60分間のweb講義を行った。子宮頸癌は、「若年で問題となり、予防できる」ことに焦点を当て、HPVワクチンによる予防と検診による早期発見の重要性を解説した。 
21	群馬県警察署における女性疾患セミナーの開催	1	群馬県警察署にて「女性疾患とセルフケア」といった内容で、全職員向けのセミナーを行った。女性疾患のみならず、不妊治療から閉経期に関する幅広い内容に言及し、また女性だけでなく男性の職員も聴講したことで、女性を 

			取り巻く問題を疾患の観点からより広く周知されたと考えられた。
22	第 104 回全国高等学校野球選手権群馬大会 医療サポートについて	4	<p>全国高等学校野球選手権群馬大会にメディカルスタッフとして参加した。選手の怪我や球場を含めた会場内の観客や大会関係者の健康不良等に対応し、安全に大会が進められるようにサポートすることが役割であった。こういった取り組みをすることで、選手が怪我なくプレーすることに貢献できれば良いと考える。</p> 
23	前橋市保健所子育て支援課 母子保健事業	1	<p>前橋市保健所子育て支援課主催のステップアップもぐもぐ教室で、「おうちのケアとむし歯予防」と題して 10 分の歯科講話を担当した。この教室は、満7ヶ月になる第一子の保護者対象に開催されるプログラムであり、食形態の移行期というこどもの栄養摂取と成長を考える上で一つのターニングポイントとも言える時期を対象としている。食事摂取の上で歯は重要な役割を果たし、歯があることで咀嚼ができ嚥下ができること、顔の骨格形成に影響を与えること、歯をケアする重要性、周囲の環境がこどもの歯みがき習慣に影響を与えることなどについて講話を行った。</p>
24	市民を対象とした口腔がん検診と早期治療への取り組み	2	<p>高崎市民を対象に、参加者 150 名を募り口腔がん検診を行った。検診参加者に口腔内診査だけでなく、口腔がんに対する基礎知識の説明し、早期発見、早期治療につながるようかかりつけ定期受診の継続や健診への積極的な参加をするよう啓発した。</p>  
25	2022 年度群馬大学医学部附属病院医療安全週間 ～育てよう 投薬をめぐる安全文化～	1	<p>群馬大学医学部附属病院医療安全週間の企画運営に関わり、院内廊下や病院ホームページに各部署の医療安全の取り組みや標語を掲載して、医療者に加え、患者や一般市民にも医療安全を知ってもらう機会を提供した。また、今年度の医療安全週間のテーマである投薬の安全に基づき、薬の管理やお薬手帳について患者市民対象のアンケートを企画し、集計結果の公表を通じて、薬の管理の重要性に関する啓発活動を行った。</p> 